



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (7月1日～6日)

1. イラン・ホドロ (IKCO) の動向 (7月1日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

イラン最大の自動車メーカーであるイラン・ホドロ (IKCO) は、中東地域最大の研究開発センターを新設することで、既存車種を改良または新規に車種を開発し、国内および海外におけるシェアを拡大させる方針を打ち出した。

2. 対イラン制裁 (7月2日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

米ニューヨーク州金融サービス局は、ロイズ・オブ・ロンドンとスイス再保険に対し、2012年イラン自由・拡散防止法 (the Iran Freedom and Counter-Proliferation Act of 2012) の違反に関連した取引を行ったとして捜査している。

3. 公定レートの廃止 (7月2日付シャルグ紙)

モンベニー戦略計画・監督担当副大臣補佐は、1米ドル=12,260リヤールの公定レートは、すでに、国家予算の中では考慮されていないとし、本年 (ヒジュラ太陽暦1392年、2013年3月21日～2014年3月21日) 予算が実行されてきてからは、すべての外貨にかかる計算は1米ドル=24,450リヤールで行われるだろうとした。

4. ガス輸出国フォーラム (7月2日付イーラーン紙)

アフマディーネジャード大統領は、モスクワで開催中のガス輸出国フォーラム (GECF) に出席し、(1) 異なる種類のガスに関する明確な価格設定を GECF が設定すること、(2) 加盟国が培ってきたガス田開発や精製などの技術・経験を世界中の国・地域に供給支援すること、(3) (加盟国による) ガス田への共同出資・開発を行うこと、(4) 資源に乏しい国への特別支援策を検討する会議を開くこと、を提案した。

5. チャーバハール港の改修プロジェクト (7月2日付イラン・ニュース紙)

中国はイランに対し、イラン南東部チャーバハール港の改修プロジェクトに対し、6,000万ユーロの提供を打診したと、*Indian Express* 紙は報じている。中国は既にチャーバハール港から72km先のグワダール港 (パキスタン) に投資を行っている。

6. チャーバハール港の重要性 (7月2日ケイハーン・インターナショナル紙)

インドのクルシード外務大臣は、イランのチャーバハール港の重要性について、同港を通じて、インドから中央アジア・ロシアをつなぐ南北回廊の構築に期待している」と述べた。南北回廊は、船舶・鉄道・道路を用いて、南アジアから中央アジア・ロシアを経由し、欧州をつなぐ物流構想である。

7. 米国による新たな制裁 (7月3日付アブラーレ・エグテサーディー紙)

米国によるイラン自動車産業に対する新たな制裁は、イランの孤立化を加速させるものである。韓国企業は公式にイランからの注文を受けないと表明。韓国企業はイラン自動車製造各社が必要とする部品の60%を供給してきたが、これが途絶えると40%以上のコスト増が見込まれる。イラン自動車製造各社は、韓国に代わり中国からの部品調達を検討している。

8. 中国海運会社がイラン発着便の運航停止 (7月3日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

中国の二大海運会社がイラン発着便の運航を停止した。世界第10位の中海コンテナ(CSCL)の幹部は、イランからの撤退を認めた。世界第5位のCOSCOもまた6月上旬にイラン着便を停止、イラン発の便もまた7月上旬に停止した。産業筋は「中国の海運会社はグローバル展開が著しいため、イラン・ビジネスをリスクと捉えたのだろう」と述べている。

9. アゼルバイジャンからのガス供給停止 (7月3日付イラン・ニュース紙)

アゼルバイジャン国営石油会社(SOCAR)は、アースターラー(イラン)ーガジマゴメッド(アゼルバイジャン)間のガス・パイプライン修復工事のため、7月2日より、イラン向けの供給を一時停止すると発表した。アゼルバイジャンは、同国飛び地のナヒチェヴァン自治共和国向けガス・スワップの一環として、イランにガスを供給している。

10. 公定レート of 廃止 (7月6日付イラン・ニュース紙)

イラン中央銀行は7月6日、ウェブサイトに掲載する米ドル価格を1米ドル=24,779リヤールとし、今まで「公定レート」と称されてきた1米ドル=12,260リヤールを廃止した。イラン中央銀行からは、現在のところ、文書による発表などはなされていない。

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799